2017年日ロ交流バスツアー

岩本　智子

今回のバス旅行には、歌を用意して行きたいと思っていた。これまでロシアの皆さんと交流してきた中で、歌が喜ばれることを実感している。2月の初めに、たまたまロシア語仲間からКак ты красива сегодня という少し昔の流行歌を教えてもらった。きれいな歌である。一緒にバス旅行に参加する上級クラスの中村さん、留学支援の山田さん、中級クラスメートのラファエルさんに声をかけ協力してもらうことにした。

晴天に恵まれた2月25日の朝千葉・茨城を巡る旅に出発した。成田山新勝寺と鹿島神宮への参拝、水戸偕楽園、つくばエキスポセンター見学と盛りだくさんである。ロシア大使館とロシア通商代表部からは31人もの方が参加され、協会側は、理事やロシア語クラス参加者など19名が参加した。最初に向かうのは初詣客数では日本で2番目の成田山新勝寺、そして近年ではパワースポットとも言われる鹿島神宮である。バスの中で内堀専務理事が、神道と仏教は違うということ―神道は万物に魂が宿るという教えであり、仏教は仏陀の教えを伝道していること、この二つの教えが日本人の心の中に共存していること、をロシア語で解説された。旅の始まりから、かなりハイレベルな文化交流である。

成田山新勝寺の広い境内に入って、煙の上がる香閣で煙をかぶると日常を離れた気がした。頂上の「平和の大塔」まで登ると梅林からのよい香りに包まれていた。鹿島神宮の森の中は静かで、空気が澄んでいる。昔の人々は自然を壊して何か作るのではなくて上手に共存させていると思う。

二日目に梅が見頃の偕楽園を訪れることが出来たのは貴重なことである。偕楽園の中にある好文亭を見学した。たくさんの部屋があるお屋敷で、それぞれの部屋には「桃の間」「松の間」など植物の名前がつけられていて襖絵に描かれている。廊下も階段も狭く天井は低く、ロシアの方達には小人の家のようである。障子があると、小さな子ども連れのお母さんは「これは紙よ。触っちゃだめ！」と気が気でない。

初日、一日歩いた夜に皆が一堂に会しての懇親パーティは、交流の重要な要素である。私が日ロ交流バス旅行に参加させて頂くのは今回3回目である。前回は2015年4月、鯉のぼりがはためく頃だった。懇親会ではロシアの皆さんが合唱を準備してきてくれていて、息の合った歌声を披露された。子どもたちは即興で舞台の上で踊り、レベルの高いエンターテイメント力に驚いた。今回は「リベンジ」とひそかに思っていたのは私だけだっただろうか。

浴衣姿で夕食が始まると、あちらこちらでロシア語の歌が聞こえ始めた。用意した歌を4人で合わせるのは、ほとんどぶっつけ本番だったが、ロシア語で歌うことがみんなの気持ちをひとつにした。さらにもう1曲、中村泰弘さん渾身の女装によるНастоящий полковникは、ロシアの皆さんが自然にコーラスで加わってきて、拍手喝采だった。今年の日ロ歌合戦は日本に軍配が上がったかな、と思ったのは私だけではなかっただろう。

この旅行に参加して梅の香りや歌をともに楽しんでくださったロシアの皆さんに感謝している。　　(常任理事)